

# 町内文化財めぐり

## ～口司の虫送り～

虫送りとは、稲につく害虫を追い払う行事です。農薬による駆除が行われるようになるまでは、稲作における虫の害は深刻で、日本各地の農村で盛んに行われていました。この虫送りの対象となる虫はウンカが圧倒的に多く、被害が大きかった西日本地区では特に盛んに行われました。

園部町でも毎年7月18日の夕刻より口司区でこの行事が行われています。当日は、午後六時頃氏神である鏡神社に氏子が参集し、祝詞が奏上され、稲の豊作や虫供養、虫送りの安全などを祈願する神事が行われます。神事が終り直会も終る頃、辺りはうっすらと暗くなりはじめ、神前の火が提灯にうつされます。氏子達の行列が先頭に提灯をもつ区長、続いて太鼓を打ち鳴らす氏子の順に神社を出発します。氏子達は太鼓の音を聞きつけ、前日につくっておいた長さ3～4mある竹製の大タイマツを手に三々五々と、村の広場に集まってきます。やがて、山手の鏡神社から、神火が区長の手によって運ばれてくると広場に置かれた薪に神火が移されます。火の勢いが強くなると、持ち寄ったタイマツをその火にかざし火を灯します。火がつくと各自の田の稲にタイマツをかざしながら「稲の虫送った稲の虫送った」と唱え畦道を歩いて廻ります。戦前までは口人区・半田区・横田区と共に催されていたようですが、今では口司区だけになってしまっています。

